

2023年3月11日

小石川植物園内の武家屋敷 ―第1地点の調査成果を中心に―

小川 祐司

(東京大学埋蔵文化財調査室)

遺跡の位置 (図1)

東京都文京区白山三丁目7番に所在する。構内には東京大学大学院理学系研究科附属植物園(以下、小石川植物園)を中心に、北西部には同大学院農学生命科学研究科樹木園、低地部に同総合研究博物館小石川分館がある。

1952(昭和27)年4月1日東京都史跡指定、1955(昭和30)年3月28日東京都旧跡指定を受け、2012(平成24)年9月19日に小石川植物園(御薬園跡及び養生所跡)として国指定名勝及び史跡に指定されている。また園内全域は小石川御薬園跡(文京区遺跡番号No.81)として遺跡登録されている。中央部には小石川植物園内貝塚・原町遺跡(文京区遺跡番号No.21)を内包し、E.S.モースらによって縄文時代中期から後期の遺物が採取されたことで知られている。

地理的環境

小石川植物園が位置する白山台地は、谷端川(小石川・礪川ともいう)によって開析された小石川谷と、その支谷である指ヶ谷谷によって本郷台から分かれた台地である。両支谷によって南北を挟まれた舌状台地を形成し、台地上の標高は約25m、谷部では約10mを測る。指ヶ谷谷に面する北東斜面は緩斜面であるのに対し、小石川谷に面する南西斜面は急崖を呈する。

近世における土地利用の変遷 (図2)

17世紀前半は小石川村の百姓地にあたる。もともと白山社が鎮座していたことが、のちの「白山御殿」の由来となる。17世紀後半には館林藩小石川下屋敷として、松平徳松(のちの五代将軍綱吉)へ与えられ、1661(寛文元)年からは綱吉の生母である桂昌院の住居となる。

こののち綱吉の将軍就任に伴い幕府が所持する小石川御殿となるが、綱吉没後の1713(正徳3)年に小石川御殿は廃止された。1684(貞享元)年に移設された薬園は存続したものの敷地は大幅に縮小され、翌年には全域が大小113筆に分割され、大名や幕臣へと下賜された。

1721(享保6)年、約4万4,800坪の御薬園として成立し、1722(享保7)年には施薬院屋敷(小石川養生所)が設けられる。こののち南西側を武家地として分割され、薬園は北側のみとなる。1854(嘉永7)年には、岡田預分の全域が伊予今治藩松平家下屋敷となり、幕末を迎える。

第1地点にみる近世の様相

近世期の遺構は1,358基確認されている。このうち確認面や遺構主軸、出土遺物の生産年代などから2期に区分し、古段階を近世1期、新段階を近世2期とした。土地利用変遷から1期は17世紀前半の百姓地及び17世紀後半から18世紀前葉の館林藩下屋敷～小石川御殿段階に属する。2期は

小石川御薬園～幕末までに属する。

近世1期 (図3)

162 遺構が検出された。塀・柵 3 基 (計 18 基で構成)、礎石建物址 1 基、溝状遺構 11 基、井戸 3 基、土坑 19 基、小穴 86 基、地下室 7 基、不明 1 基を数える。

地下室や井戸が多い。溝状遺構はいずれも長大で、断面が箱葉研形を呈する大溝 (466 号) や矩形状に屈曲する溝 (115 号) などは、境界や区画と推測される。礎石を伴う塀・柵 1 (111 号列) は 9 基からなり、広く調査区を横断する。

地下室 (644 号、759 号、994 号) などは、いずれも素掘りで構造物や造り付けの階段を伴わない。また含有量の差はあるが、覆土に焼土を含む点で共通することから、火災後の焼土整理に伴うことが考えられる。出土遺物の生産年代からは 18 世紀前葉が想定されるが、該当する火災記録は文献調査で確認されていない。遺物の接合関係では、溝や塀・柵を超えて接合するものもあり、御殿の廃絶期に近いことがうかがわれる。

遺物は 4,695 点 229,246.3g が出土している。近世 2 期と比較すると、点数比は半分程度と少ないが、重量比はこれを若干上回る。

生産年代は 17 世紀後半から 18 世紀初頭頃を主体としており、熱を受けた製品が一定量含まれる。日常的に使われる飲食器類を中心として、古九谷様式の型皿や中国漳州窯産の大皿が僅かに出土している。また少数ながらも紅皿や、白磁壺などもみられる。

近世2期 (図4)

1,196 遺構が検出された。塀・柵列 164 基、礎石 5 基、溝状遺構 102 基、土坑 320 基、小穴 533 基、道路状遺構 15 基 (波板状痕含む)、不明 9 基を数える (いずれも同一遺構含む)。

北側には幅広の溝状遺構 (745 号) が東西に長く展開する。このさらに北側の調査区際には、細めの溝状遺構 (754 号、766 号、2960 号) が 745 号と並走しているのが確認できる。植栽痕とみられる土坑 (211 号、254 号、760 号、2630 号、2881 号など) は、これらの溝に沿うように構築されている。一方、北西側は、L 字に曲がる溝 (204 号) に囲まれた範囲には道路状遺構 (256 号) がみられる。

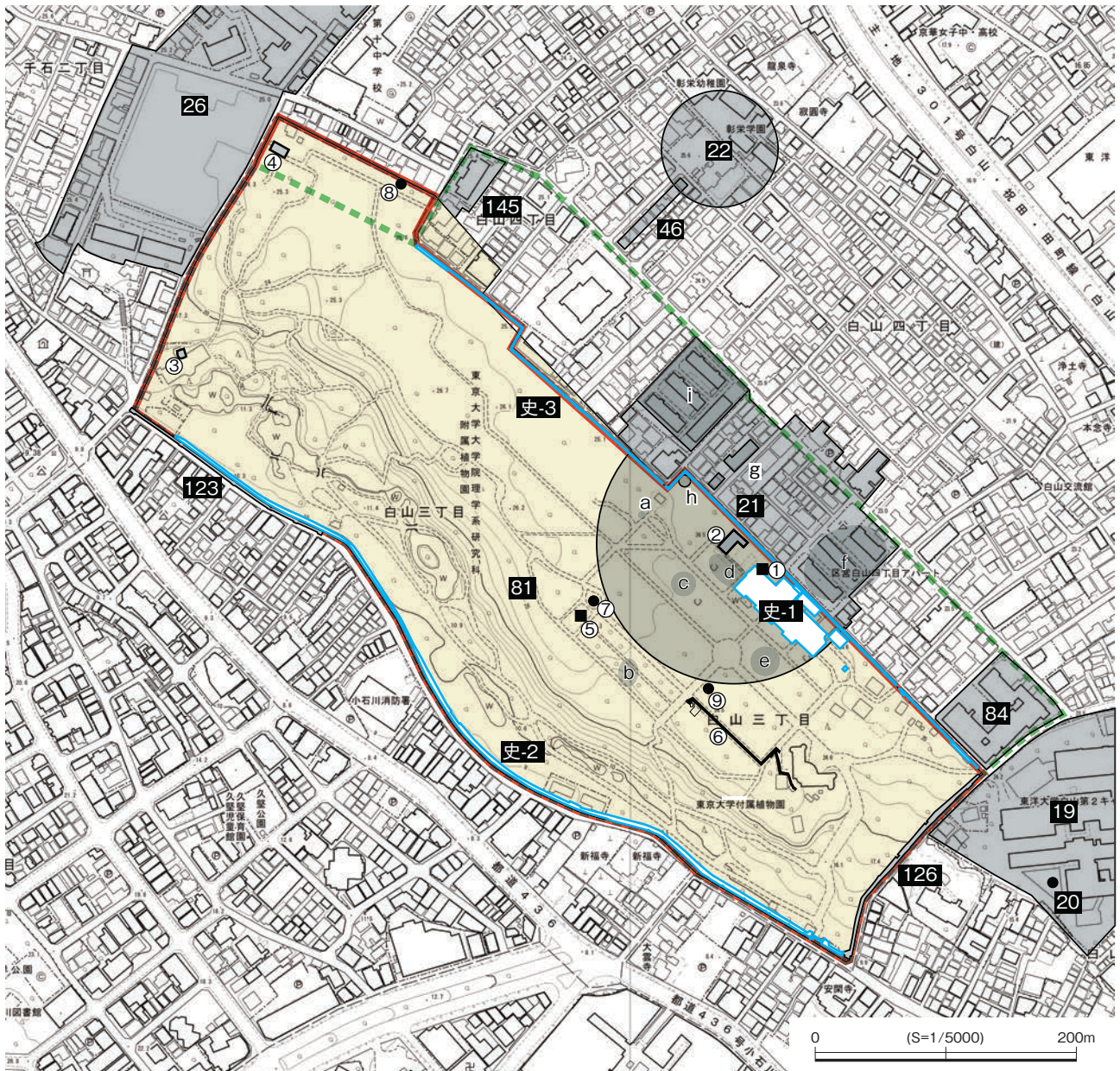
東側は畝とみられる溝状遺構が南北方向に並び、この南側には L 字状に区切るように塀・柵 4 が構築されている。長方形を基本とする土坑状を呈し、等間隔に配されるなど顕著な規則性が見られる。寛政頃の「岡田預御薬園絵図」(図 5) には、「内矢来」と書かれた囲いが描かれており、塀・柵 4 はこれに相当する可能性がある。園内には朝鮮人参や丁梅 (よぼろうめ) が栽培されていた (図 6・7)。

遺物は 10,274 点 197,856.6g が出土した。近世 1 期の製品を多く含む傾向が顕著にみられる。遺存状態が比較的良好な資料群は 19 号、234 号、745 号などに限られる。これらも破片資料が主体となるものの、18 世紀後半から 19 世紀代の飲食器類を中心としてみることができる。

- 上田三平 1930『日本薬園史の研究』
- 丹野祥枝 2018「遺跡速報 国指定名勝及び史跡 小石川植物園（御薬園跡及び養生所跡）」『考古学ジャーナル』No. 710
- テイケイトレード株式会社 2008『林町遺跡—事業用地開発計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 東京都埋蔵文化財センター 2020『文京区 小石川植物園内貝塚・原町遺跡』
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2006「理学系研究科附属植物園研究温室地点発掘調査報告」『東京大学構内遺跡調査研究年報』5
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2008「総合研究博物館小石川分館地点」『東京大学構内遺跡調査研究年報』5
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2008「総合研究博物館小石川分館地点（KI）」『東京大学構内遺跡調査研究年報』6
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2012「東京大学白山構内の遺跡 農学生命科学研究科附属小石川樹木園根圏観察温室地点発掘調査報告」『東京大学構内遺跡調査研究年報』8
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2019「東京大学白山構内の遺跡 理学系研究科附属植物園本園 下水・電源ケーブル埋設枿・埋設溝地点発掘調査報告」『東京大学構内遺跡調査研究年報』11
- 成瀬晃司 2008「白山御殿の惣囲いについて」『東京大学構内遺跡調査研究年報』6
- 文京区教育委員会 2017『国指定名勝及び史跡 小石川植物園（御薬園及び養生所跡）第2地点』
- 文京区教育委員会 2023『国指定名勝及び史跡 小石川植物園（御薬園及び養生所跡）第1地点』（近刊予定）

岩崎常正『本草図譜』巻61-63, 写. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/2550794>
『岡田御薬園之図』, 写. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/2543004>
田村元雄 編『朝鮮人参耕作記』, 明和 1 [1764]. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/2536145>

図版・写真のうち特に記載のないものは、文京区教育委員会からご提供いただきました。



- | | |
|---|---|
| 国指定名勝及び史跡 範囲 | 文京区No.81 範囲 |
| 国指定名勝及び史跡内 調査範囲 | 小石川御殿(元禄11年以降) 推定範囲 |

国指定名勝及び史跡 小石川植物園(御薬園跡及び養生所跡) 史-1:第1地点(本地点)、史-2:第2地点、史-3:第3地点

東京大学埋蔵文化財調査室調査地点(丸数字)

- ①:研究温室(1期)地点、②:研究温室(2期)地点、③:総合研究博物館小石川分館地点、④:小石川樹木園根圏観察室地点、⑤:医学部創設150周年記念建物地点、⑥:売店下水・電源ケーブル改修地点、⑦:養生所井戸柵改修地点、⑧:小石川樹木園万年堀改修地点、⑨:ウクライナ支援桜植樹地点
 (網掛け範囲は本調査、■は試掘調査、●は立会を示す)

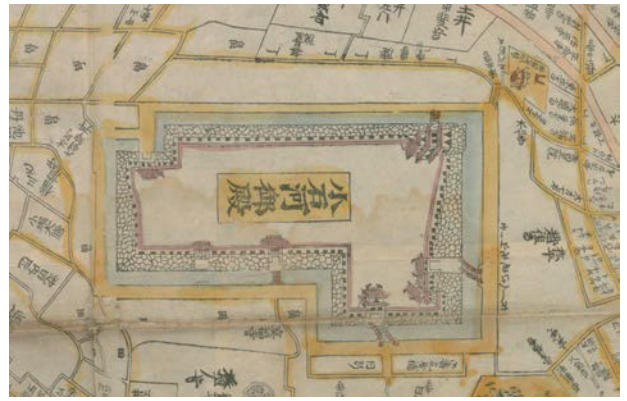
文京区登録遺跡

- 21:小石川植物園内貝塚・原町遺跡(a~f貝類等散布地点、g:第I地点、h:第II地点、i:日本銀行本店原町家族寮地点)、81:小石川御薬園跡、19:戸崎町遺跡、20:御殿町古墳、22:原町貝塚、26:林町遺跡、46:白山四丁目遺跡、81:小石川御薬園跡、84:白山御殿町遺跡、123:小石川植物園西遺跡、126:小石川植物園南遺跡

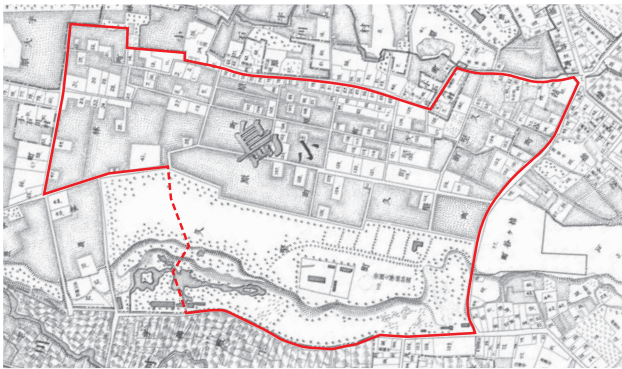
図1 小石川植物園園内及び周辺遺跡



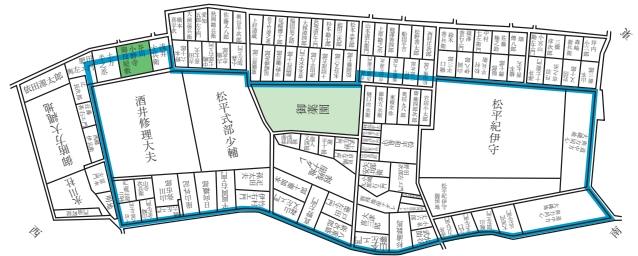
1-1.寛文11(1671)年 館林藩下屋敷
 『新板江戸外絵図』国立国会図書館デジタルコレクション



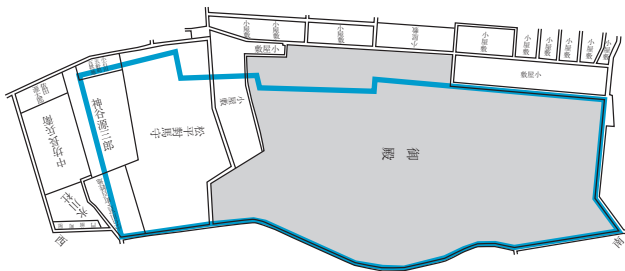
3-2.正徳2(1712)年「小石川御殿」
 『分道江戸大絵図』国立国会図書館デジタルコレクション



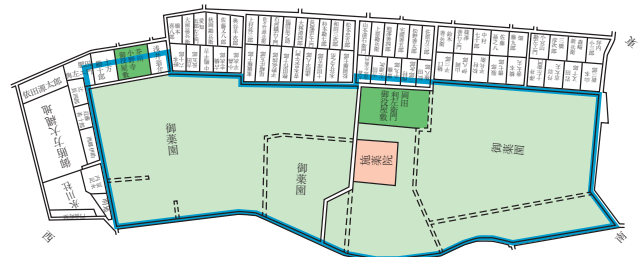
1-2.館林藩下屋敷の範囲比定
 1-1の路地を基準に1895(明治28)年地形図と合成



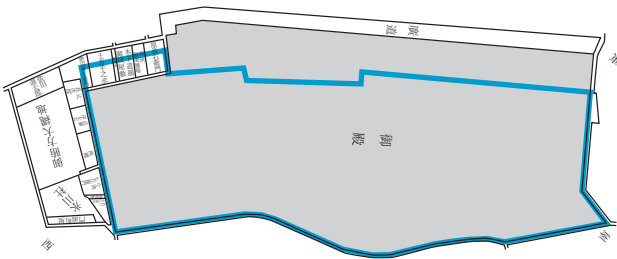
4.正徳4~6(1714~16)年
 『御府内場未往還其他沿革図書』より作成



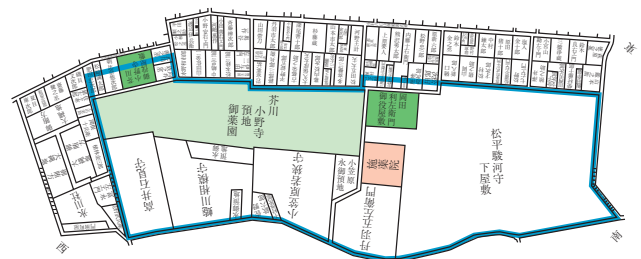
2.天和年間(1681~84)
 『御府内場未往還其他沿革図書』より作成



5.享保7(1722)年
 『御府内場未往還其他沿革図書』より作成



3-1.元禄11(1698)年
 『御府内場未往還其他沿革図書』より作成



6.嘉永7(1854)年
 『御府内場未往還其他沿革図書』より作成

■ 小石川御殿 ■ 御薬園 ■ 施薬院(養生所) ■ 薬園奉行役宅

※青線枠は、絵図から比定した植物園範囲を示す

図2 絵図にみる土地利用の変遷

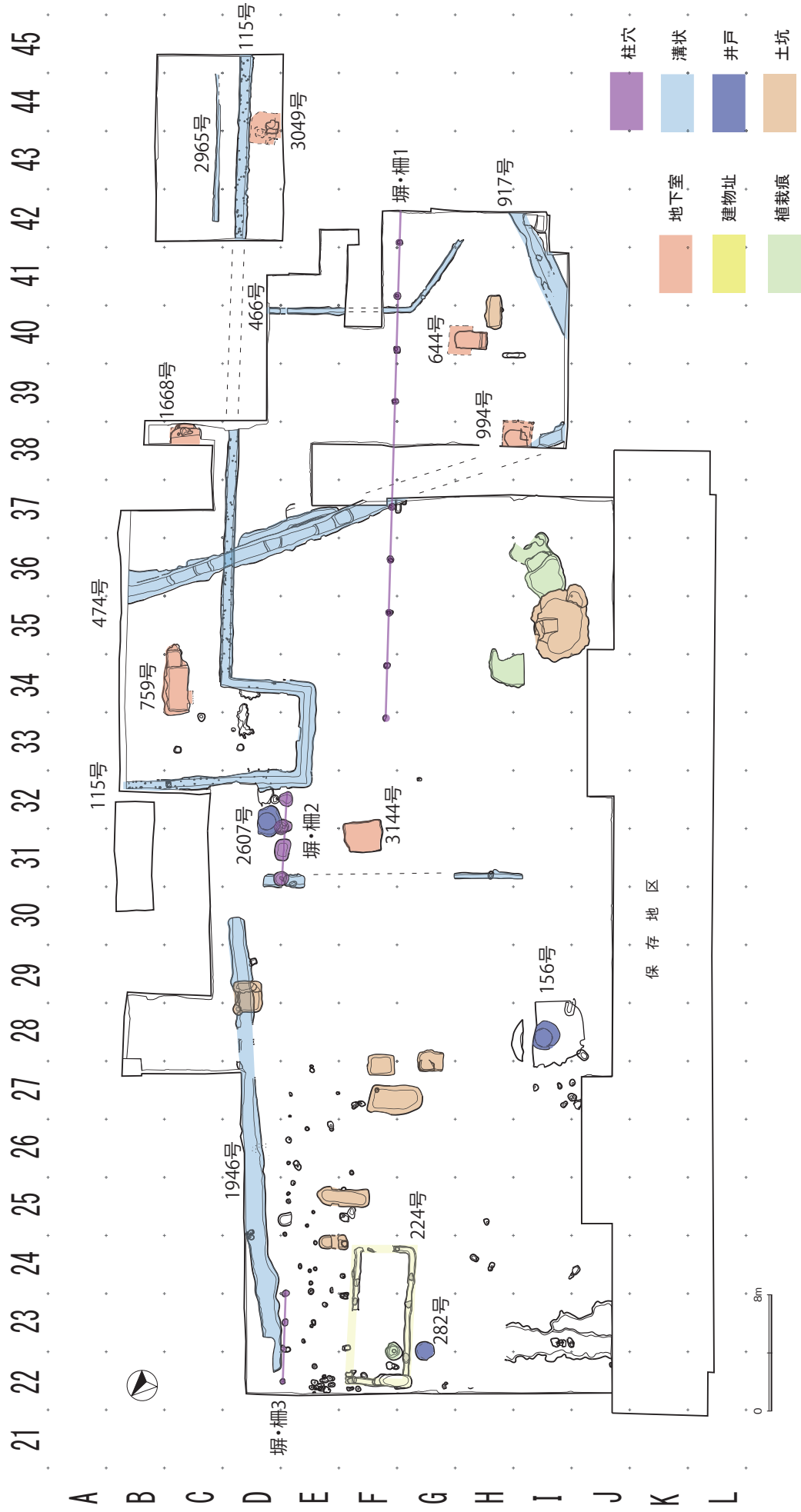


図3 小石川植物園(御楽園跡及び養生所跡)第1地点
近世1期遺構配置図

21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45

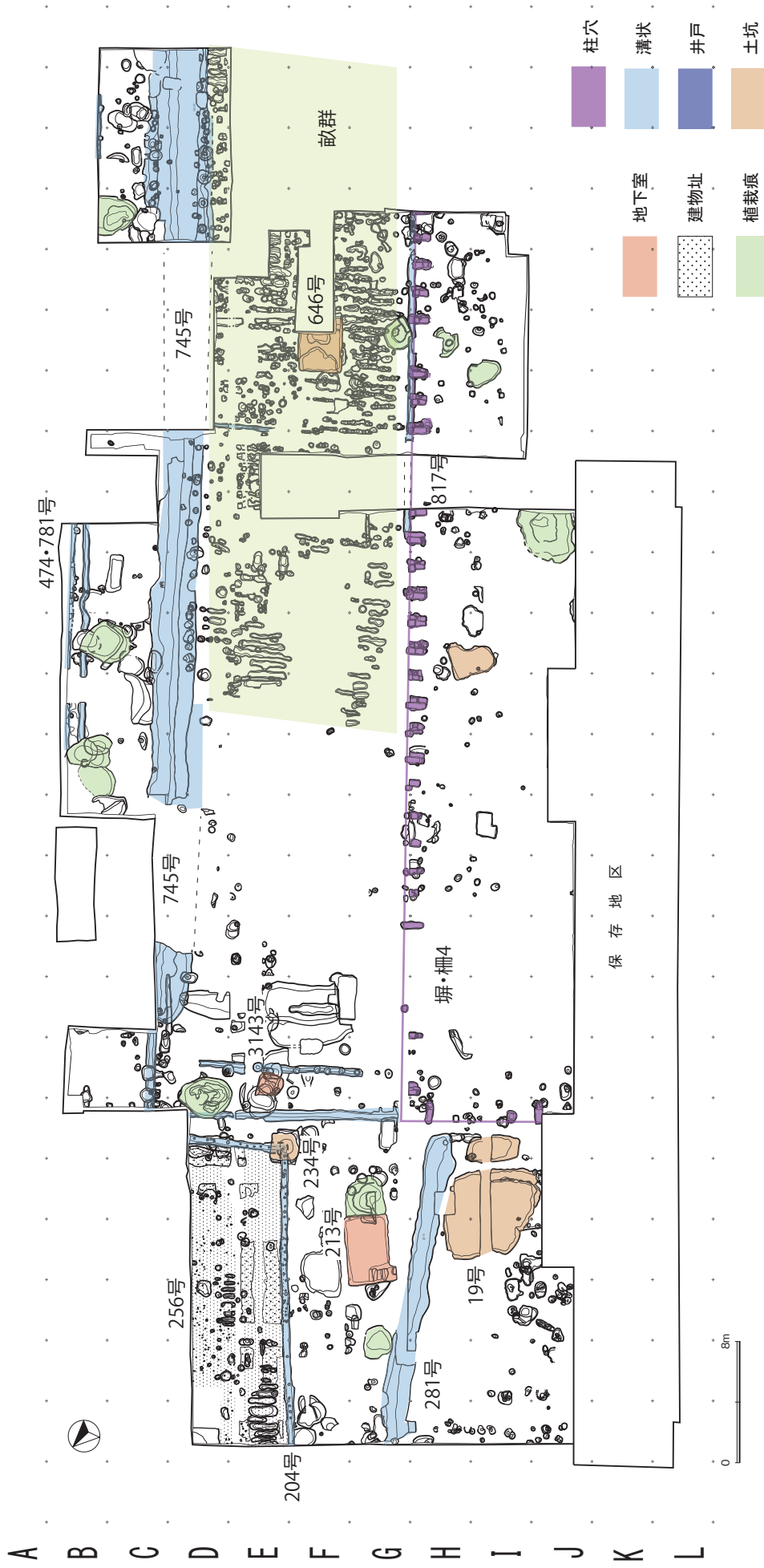


図4 小石川植物園(御栗園跡及び養生所跡)第1地点
近世2期遺構配置図

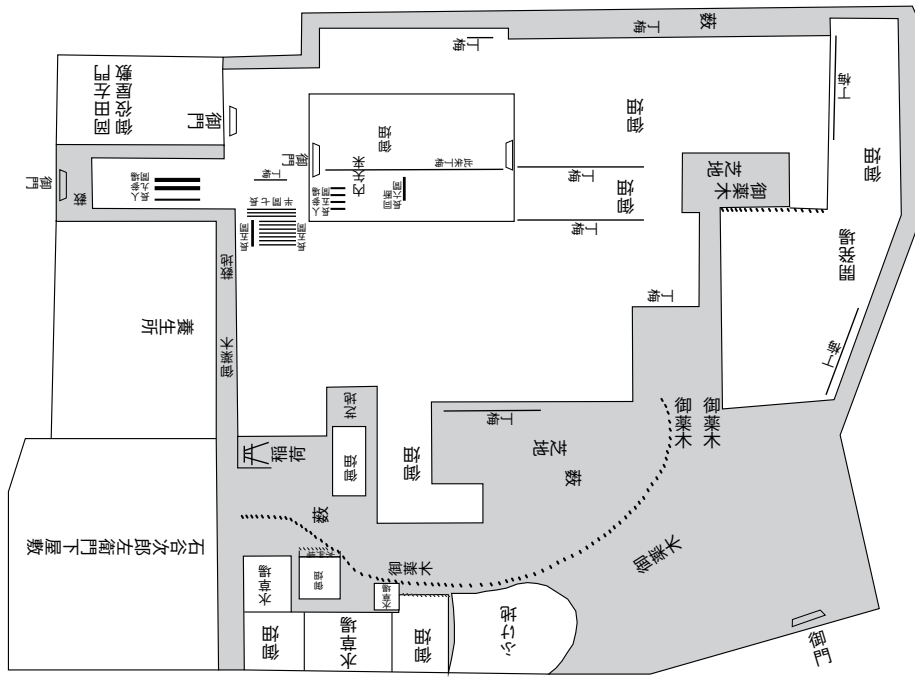


図5 「岡田預御薬園絵図(寛政頃)」(第1地点研究編 渋谷論考より引用)



図6 「丁梅」
岩崎正常(写)「本草図譜」
(国立国会図書館デジタルコレクション)

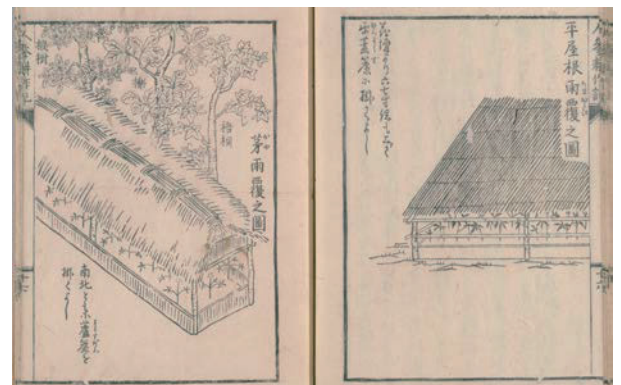


図7 朝鮮人參(上)、覆屋(下)
田村元雄 編「朝鮮人參耕作記」明和元(1764)年
(国立国会図書館デジタルコレクション)